

教育目標		心身ともに たくましく すこやかに 生きる子を育む						
重点目標		たくましく健やかに生きる子の育成 ・確かな学力の育成 ・子ども理解に基づく教育の推進 ・家庭や地域から信頼される有岡ならではの教育の創造						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
基礎・基本の徹底と授業改善	基礎・基本の徹底と授業改善	・国語の読解プリントを朝のチャレンジタイムに週3回実施する。 ・校内研修として、学年別に生活科・理科を中心に授業を公開する。講師の先生に指導助言を受け、研究を深める。 ・校内ミニ研修を実施し、授業力の向上に役立てる。 ・5.6年の算数で、新学習システムを実施する。 ・算数では、授業の初めに各学年音読計算を取り入れ、計算力の向上に役立てる。 ・中、高学年を中心に、1週間程度夏休みに学習会(サマースクール)を行う。 ・PTAの学力委員会と連携し、放課後、児童の学びの場や土曜学習を推進する。 ・学力向上プランを作成する。	・年度末の読解力テストの正答率が80%以上になるようにする。 ・年間を通じて、事前研究会、事後研究会をそれぞれ6回実施する。 ・授業研究会とは別に、年間3回校内ミニ研修会を実施する。 ・算数の少人数指導を実施し、算数の学力を向上させる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「授業はわかりやすく楽しい」と回答した割合が90%以上になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合が90%以上になる。 ・水曜広場を月1回以上開催する。土曜学習を月に1回以上開催する。	A	・成果として、年度末の読解力テストの正答率が平均80%以上に達した。 ・チャレンジタイムは朝の会と時間帯が同じなので確保しにくい。 ・年間を通じて、事前研究会を3回、事後研究会を6回実施し、職員全体で研究を深めていった。授業力の向上と授業改善に成果が見られた。 ・授業研究会とは、別に自主研修会を実施した。 ・各種研修会について職員の74%が授業に生かしていると評価した。 ・算数の少人数指導を実施し、きめこまかな指導ができた結果、算数の学力を向上させた。 ・児童アンケート結果から「授業はわかりやすい」と回答した割合が82%で、目標を達成できなかった。「先生は、教え方にいろいろ工夫している」と回答した割合も、90%で、目標を達成している。 ・保護者も先生はわかりやすい授業に務めていると99%が評価している。 ・振り返りと両方行うのには時間が足りないこともあり、算数の音読計算の実施にはばらつきがある。	・引き続き、週3回朝のチャレンジタイムに読解プリントや視写プリント実施していくことで、各教科の基礎学力となる読解力を高める。短い時間で確実にこなすことができるような教材を工夫する。 ・自主研修会については、若手教師の増加に伴い、授業力の向上を目指した内容で行っていく。 ・算数の少人数指導の改善策としては、引き続き具体物を使って、理解を深め、問題の練習量を増やして、学習理解の定着や抽象的な思考力の向上を図る。また、3・4年の中学年の算数の基礎的な内容を着実に理解させることで、高学年につなげていく。 ・本校の研究全般にわたって、学校全体で協力しあう姿勢を維持し、研究意識を高める。 ・水曜広場や土曜学習を確保し、内容の充実を図る。 ・学力向上プランの具体化し、子どもの実態に沿って学力向上を図る。 ・算数の音読計算を引き続き実施していく。	学校関係者評価	
	学力の向上	・思考力、判断力、表現力を育てる授業を展開する。 ・読書活動を充実させ、語彙力の向上を図る。	・業間休みや夏休み等も図書室を開放したり、各学年・クラスの常備図書を増やしたりする等、図書環境を充実させる。 ・理科で学ぶ問題解決的な学習を他教科にも広げていく。(自分の考えを持つための問題解決学習のあり方) ・各教科で言語力を高めるために、記述・説明する活動を充実させる。 ・ノートや学習カードの活用。 ・学力向上プランの作成。 ・教育のユニバーサルデザイン化を図る。	・読書カードに読書した書名を記入させ、読書を推進する。 ・1ヶ月の読書目標数を11冊を達成する。 ・実験前に予想・仮説を立てさせ、観察・実験の結果を整理し、考察する活動大切に。(ノートや学習カードの活用) ・各教科で言語活動を学習活動に取り入れる。	B	・成果として、1ヶ月の読書目標数11冊は達成できた。中学年から読み応えのある本を読んでいる児童が多いため、冊数はあまり増えてはいないが、学校で読書をするのが習慣になっていたり、図書館のイベントを楽しんだりする児童が増えていく。 ・教科での活動を、多様な方法で表現させることで、気づきの質を高めて表現力が育つよう取り組んだ。 ・理科では自分の考えを持つために、問題解決学習を重視して取り組んできた結果、進んで課題解決の方法を自分で考えたり、意欲的に学んだりする姿が見られるようになってきた。 ・観察・記録・整理・考察・説明、意思決定等の言語活動を各教科に取り入れていくことができた。 ・授業においてユニバーサルデザイン化	・引き続き図書館の利用を促すようなイベントや図書の紹介をしていく。 ・主体的に対話的で深い学びに向けて、各教科の学習内容で、具体的な指導計画をしっかりと立案して授業に臨む。学習時間の中で思考したり、表現したりする時間を十分確保する。 ・学力向上プランをより具体化していく。 ・朝学習に読書タイムを取り入れる。	
	学習意欲の向上	・授業の展開を工夫し、学習意欲を向上させる。 ・家庭学習を充実させ、学習意欲を向上させる。	・対話型の授業の実践(ペア・グループ・全体)を行う。 ・各教科で電子黒板や実物投影機等を活用して学習意欲を向上させ、学習内容の習熟度を高める。	・低学年30分、中学年60分、高学年90分の家庭学習の目標時間を達成する。 ・ICTを月600回以上活用する。 ・予習復習の習慣をつける。	A	・成果として、ICTを月平均700回以上活用できた。 ・アクティブラーニングを授業に取り入れることにより、子ども一人一人が実感を持って理解を深め、学習意欲につながっていった。 ・保護者と連携し、家庭で、繰り返し反復させたことで、教科の基礎的な内容の理解が定着し、できる・わかるが次なる意欲につながっている。 ・家庭での学習時間は、子どもにより個人差が大きく、改善が必要であるが、自主学習をする児童は増加傾向である。 ・家庭での読書時間を確保する。	・授業の中での効果的なICTの活用方法を、職員間で研修することで、活用へのさらなる意識を高める。さらに、多くの職員が活用できるようにしていくための研修を行う。 ・自主学習ノートを取り入れ、学校や家庭での自主的な学習時間の確保を図る。 ・児童の家庭学習や読書に対し、その都度評価し意欲の持続化につなげる。 ・アイパッド等機器の活用を行う。 ・さらにアクティブラーニングに取り組んでいく。 ・家庭学習プリント配信システムの活用を図る。	
豊かな心・健やかな体	いじめ、不登校への対応	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応に取り組む。 ・不登校児童数を減少させる。 ・命を大切に児童を育てる。	・いじめアンケートを実施し、実態に応じた対応をしていく。 ・欠席がちな児童には、家庭訪問を行うとともに、保健室登校等児童の負担にならないような登校を選択していく。 ・毎月生徒指導研修会(いじめ等)を持つ。 ・全ての教育で命の教育を推進する。 ・毎月の職員会で各クラスの子どもについての報告を行い、共通理解を図る。	・いじめアンケートの結果や教職員がいじめと認識した事案について、早期発見、早期解決。 ・毎月1回スクールカウンセラーと全職員で生徒指導研修会を持つ。 ・不登校児童数が0人になる。 ・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が85%以上になる。	B	・児童生徒アンケートにおいて、「自分を大切にすることや、他の人への思いやりについて教えてもらっている」と回答した割合が90%になり、目標を達成した。 ・欠席が30日を超える児童は3人だった。 ・問題行動報告会は、月1回スクールカウンセラーを交えて、職員会議前に行い、共通理解した。 ・生活指導部会を毎月行った。	・有岡小学校いじめ防止等のための基本方針に基づいて、組織として取り組んでいく。 ・引き続き、欠席がちな児童には、家庭訪問や電話連絡等で保護者対応を密にした上、職員間で情報を共有化したりして、複数の職員で対応していく学校ぐるみの組織的な協力体制をさらに構築する。また、関係機関と連携を行う。 ・保護者がより学校への相談がしやすくなるような体制作りに取り組む。	
	体力の向上	・冬場の縄跳び運動や、外遊びを奨励したりする。 ・冒険教育やボール投げ、サーキットトレーニング、持久走を可能な範囲で体育の時間に取り入れる。 ・スポーツの楽しさを体感させる。 ・放課後運動場を開放し 体力向上をめざす。 ・スポーツ21等地域の体育的行事に参加するよう呼びかける。 ・体力アッププランを作成する。 ・各クラスにドッジボールやスポンジボールを配布する。	・冒険教育を月200回目標を達成する。 ・年間を通じて、児童主催の委員会を中心に全校ドッジボール大会等を入れる。 ・体育の時間にサーキットトレーニングを取り入れる。 ・体力アッププランの実施	B	・冒険教育を体育の準備運動や体育のカリキュラムに組み入れ、月平均200回は達成できなかったが、休み時間の利用は増えている。 ・児童主催の委員会を中心に、ドッジボール大会、鬼ごっこを行ったりして、スポーツの楽しさや体力の向上につながった。 ・業間休みや昼休みなど、各クラスに配布されたボールを使ったり遊具を使ったりして遊んでいた。 ・体育のがんばりカードを活用し、休み時間にも運動する児童がみられた。 ・運動場開放を第1、3、5土曜日に	・冒険教育やサーキットトレーニング、持久走等のさらなるプログラム開発することで、児童にとって楽しく、魅力あるものにし、目標を持って自ら進んで体力を向上させようとする児童を育てていく。 ・児童主催の委員会活動で、楽しんで体を動かす活動を組み込んでいく。 ・体力向上プランを考えるなど、学校全体で取り組む。		
開かれ信頼される学校	学校情報の積極的な発信	・学校便り、ホームページ等学校情報発信する。 ・授業公開や参観日、オープンスクール等を行う。	・学校だよりを月1回以上発行し、学校情報を保護者に発信する。 ・学校ホームページを月1回以上更新し、学校情報を発信する。 ・学校評価を学校改善に活かす。 ・有岡小学校区まちづくり協議会、すこやかネットに参加する。 ・あいさつ、言葉づかい、服装、時間を守ることなどのマナーや生活のきまりを、地域や保護者とともに取り組む。	・学校だよりを月1回以上発行する。 ・自校のホームページを月1回以上更新する。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は、学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が90%以上になる。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した保護者の割合が90%以上となる。 ・PTAと連携し、水曜広場や土曜学習を月1回以上開催する。	A	・学校便りを月1回発行した。 ・ホームページを月に9回更新した。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は学習の場として子どもが活動しやすい環境が整っている」と回答した割合が100%になり、目標を上回った。 ・保護者アンケートにおいて、「学校は保護者の願いに応えている」と回答した割合が100%になり、目標を上回った。 ・PTAとの連携は、放課後学習を水曜日に月1回行った。土曜学習も月1回行った。 ・地域や保護者等の各機関の協力を得て、様々な生活のきまり等に対し、組織的な指導ができた。	・学校便りに詳しく月の行事を載せていく。 ・自校のホームページを定期的に更新するために、児童の活動の様子をその都度記録し、保存しておく。 ・教職員や地域の人等が共通認識のもとに一貫した指導を行うことができるように協議検討していく。 ・学校だよりにより月の行事等をさらに詳しく載せ、教育活動内容を詳しく保護者に発信していく。 ・学校評価を学校評議員会議で再確認し、実践していく。 ・今後もPTAと連携し水曜広場や土曜学習をさらに進めていく。 ・地域の人材のより積極的な活用を図る。 ・スポーツ21への参加を呼びかける。 ・指導計画をホームページに載せてより詳しく学校の様子を発信する。	
	幼・小・中連携	・校種間の連携を深め情報交換等を行う。	・幼・小の給食交流・行事交流・遊び交流 ・幼少連携委員会・PTA学力向上委員会との連携 ・小中連携委員会・中学校夏季合同研修会 ・各校種間の出前授業の実施 ・校内研修会への幼稚園教諭の参加	・幼小連絡委員会を月1度開催する。 ・中学校と話し合いを持つ。 ・ありおか幼稚園には、学期に1回以上出前授業を行う。 ・中学校の出前授業を年1回行う。 ・幼小各校園の研究会に参加する。 ・幼小連携から接続へ	A	・低学年児童を中心に幼稚園児や保育園児と交流したり、教員が幼稚園に出前授業をしたりするなど、連携を深めることができた。中学校とは随時話し合いを持ち、合同研究会にも積極的に参加した。 ・中学校は、北と南に分かれており、同じよう連携するのは難しかった。	・幼小中の話し合い時間を確保し、お互いの研究の中にも位置づけていく。 ・中学校は、北と南に分かれており連携が難しい面があるが、児童が小学校生活から中学校生活へスムーズに移行できるようにそれぞれ連絡を密にしている。	

学校関係者評価総括

次年度に向けた重点的な改善点